児童に見られるつまずき

　あまりのあるわり算の意味を理解することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　問題場面を半具体物や図を用いて表したり、場面に応じたあまりの適切な処理の仕方を半具体物や図を用いて表したりする活動を通して、あまりについての理解を深めさせる。

指導事例集ｐ．３９

１　学年・単元名　　第３学年　　あまりのあるわり算（数と計算領域）

２　単元目標

　・余りのあるわり算の問題に進んで取り組もうとする。　　　　　　　　　　（関心・意欲・態度）

・わり算の意味に基づいて、余りのあるわり算の求め方を考えることができる。（数学的な考え方）

・余りのあるわり算ができ、場面に応じて余りを的確に処理することができる。　　　　　（技能）

・余りのあるわり算の計算の仕方が分かる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識・理解）

３　単元の内容

　・余りのあるわり算の意味と表し方

参考：ノート１　板書

　・除数と余りの大きさの関係

　・**場面に応じた余りの適切な処理の仕方**

４　本時の目標

余りを切り上げて処理する問題や、余りを切り捨てて処理する問題を理解し、活用する。

５　本時の展開

|  |  |
| --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点**太字：つまずきに対する手立て** |
| つかむ | １　問題場面を把握し、課題をつかむ。３５人の子どもが、長いす１きゃくに４人ずつすわっています。　みんなすわるには、長いすが何きゃくいりますか。○本時の課題を知る。 | ・分かっていること、たずねられていることを確認する。また、図を提示し、しっかりとしたイメージを持たせる。・前時との相違点を明確にすることにより、課題へ意識付ける。**あまりをどうするか考えよう** |
| 考える | ２　自分で問題を解く。式　３５÷４＝８あまり３答え　９きゃく（あまり３人・・・のこり３人がすわるにはもう１きゃくいるから９きゃく） | ・問題内容を把握し、式と答えをノートに書かせる。ワークシート１　参考：記入済みワークシート、発表ボード**・困っている児童には、「みんながすわる」という言葉に着目させ、残りの３人をどうするかを考えさせる。** |
| 話し合う | ３　自分の考えを説明する。○ペアで数図ブロックを使い、自分たちの考えを話し合う。○全体で話し合う。 | **・ペアでワークシートを使って、数図ブロックを動かし、答えのイメージを持ちやすいようにする。****・ペアで考えを交流させる。**・「みんながすわる」という言葉に着目させ、あまりを切り上げて、計算の答えに１をたさなければならないことをおさえる。 |
| 確かめる | ４　類題に挑戦し、自力解決をする。ドッジボールが１１こあります。１回に２こずつ運ぶと、何回で全部運べますか。参考：ノート２○学習の振り返りをする。 | ・あまりを切り上げる適用問題に取り組ませる。・「全部運ぶ」という言葉に着目させ、あまりをどのようにしたら良いのか考えさせる。**・つまずいている児童には，机間指導し半具体物などを使って個別に支援をする。** |